

推薦:財団法人 全日本交通安全協会



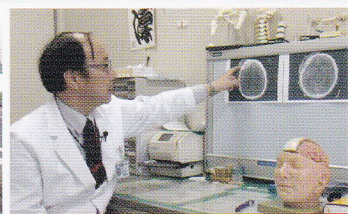
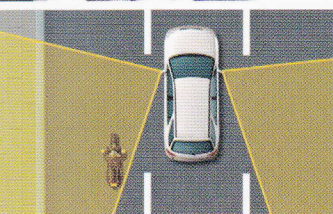
身体に直接ダメージを受けるバイク事故!
自分自身を守る運転とは何か?

原付・自動二輪車ライダーへ

防ごう!

バイク事故

～事故に学ぶ安全運転のポイント～



CG—事故はなぜ起きたか

バイクの特性を検証

人体へのダメージ

交通機動隊への取材

¥63,000 (税込)

DVD/VHS



[企画・制作] 齊藤プロダクション

[16:9 / カラー23分]

字幕付き映像も収録されています。

Tel. 0494-25-4801 Fax. 0494-25-4802

原付・二輪車ライダーへ

防ごう!バイク事故

～事故に学ぶ安全運転のポイント～

制作意図

二輪ライダーが事故を防ぐ為の運転とは?

バイクは趣味からビジネスまで、幅広いニーズのある乗り物。しかし、ひとたび事故を起こしてしまうと、生身のライダーは大きなダメージをうける。本作では、その答えを実際に起きた二輪車の交通事故から探ります。そこから浮かび上がる、二輪車ならではの特性や、注意点をもとに、安全運転のポイントを解説していきます。また、生身のライダーを守るヘルメットやプロテクターの重要性を訴えていきます。

主な内容

◆傷付きやすいライダー バイクと車との衝突事故が発生。現場に駆けつけた取材班が捉えたのは、身体を激しく打ち付け、傷付いたライダー。一方のドライバーは車のボディに守られ無傷だった。バイクでの事故は、その衝撃を生身で受けてしまう事を強く印象づけられる。

◆バイク事故はどれほど危険か 優れた機動性から、様々な人々に活用されているバイク。反面、いったん事故を起こすと大げがつながりやすい。交通統計によると、バイク乗車中の事故で重傷・死亡するケースは、自動車乗車中の約5倍。これから見て行く実際に起きた事故事例から、安全運転のポイントを学んでいく。

【事故事例1】右直事故～バイクは車からどう見えているか
直進しようとした原付と、対向車線を走ってきた右折車との事故。車のドライバーは、曲がれると思って右折したらぶつかったという。なぜだろうか。実験してみた。

実験:バイクとトラックの見た目の速度比較

同じ地点から、同じ速度で走ってくるバイクとトラックを、正面から見たとき、どちらの方が速いと感じるかを実験。トラックに比べ、車体の小さいバイクは実際よりも遅く、より速く感じてしまうことがある。そのため、右折しようとする車のなかには、「この距離なら大丈夫」と曲がってしまうドライバーもいる。交差点に右折車がある場合は、「右折してくるかもしれない」と用心しておく事が大切だ。

【事故事例2】車線変更時の事故～車の死角に入ったバイク
片側2車線の道路で、車が左に車線変更するときに、左側を走っていたバイクと接触した。バイクはなぜ見落とされたのか。

検証:車の死角

車の後斜め方向には、バックミラーにも、サイドミラーにも映らない部分がある。いわゆる、車の死角だ。バイクは車体が小さいため、その死角に入り込んでしまうことがある。バイクは他の車から「自分は見落とされているかもしれない」と意識し、前後左右に適切な距離を保って走行したい。

【事故事例3】出会い頭の事故～一時停止を守る

丁字路で起きたバイクと自転車の衝突事故。バイクが一時停止を守らず、停止線を越えたところで自転車と衝突した。

ドキュメント:一時停止を守らないライダー達

一時停止の標識がある交差点を観察したところ、きちんと止まらず走りながらの確認になっているライダーたちを見かけた。一時停止の標識があるときは、しっかり止まり、安全を確認する。これは道路交通法に定められている。交通ルールを守る事が安全運転の基本だという事を常に忘れてはならない。

【事故事例4】カーブでの事故～安全なコーナリングについて

カーブを曲がりきれなかったバイクが、中央線を越えたため、対向車と衝突した。バイクはなぜカーブを曲がり切りきれなかったのだろうか。

検証:車体に働く遠心力、コーナリング中の目線

模範ライダーによる実演で、バイクの動きを細かく解説。コーナリング中、車体にかかる遠心力に応じてバイクをコントロールできないと、カーブを曲がりきれないという事になる。カーブの手前で十分に減速し、直線に入るところで加速する。これが基本だ。また、コーナリング中は車体は傾けても目線は水平を保つことが重要だ。実際にヘルメットにカメラをとりつけ、その様子を解説する。

◆頭にダメージを受けてしまうと

脳外傷に詳しい医師によると、バイク事故の際、脳の前側にある前頭葉が傷付きやすいという。その後遺症によって後の社会復帰に大きな困難を伴う。そういった事例から、ヘルメットの重要性を指摘する。さらに、ヘルメット製造工場を取材し、ヘルメットの正しい使い方を学ぶ。

◆プロテクター着用のすすめ

バイク事故のダメージを軽減するプロテクター。交通機動隊への取材を通じてプロテクターの重要性とともに、ライダーとしての安全運転のポイントを聞く。

企画:齊藤宏子 プロデューサー:齊藤健太郎/鈴木浩
監督:遠山慎二 撮影:市川任男 ナレーター:北斗賢一
協力:長野県警察/下館自動車学校/株式会社SHOEI
東京慈恵会医科大学附属病院/東京高次脳機能障害協議会

[企画・制作・著作]

齊藤プロダクション

Tel. 0494-25-4801

Fax. 0494-25-4802

各都道府県・各地区交通安全協会
財団法人 全日本交通安全協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-13 TEL:050-3531-0571

お申し込み
お問合わせ